



## 年間第 5 主日 (ルカ 5:1-11)

人間の知恵と努力の先で神のことばは働く

今週は「漁師を弟子にする」という朗読箇所が選ばれました。本日 2月6日ですが、前日の5日は日本 26 聖人殉教者の祝日でした。少し、26 聖人についても触れておきたいと思います。

皆さんは NHK のニュース 845 をご覧になっているでしょうか？ 平日、夜 8 時 45 分から 15 分間、ローカルニュースを流しています。その最初の 3 秒か 5 秒で流れる映像お気づきですか？ NHK 長崎から大浦天主堂をアップで映して、そこからぐっとカメラを引いて長崎の夜景に移行しています。私はあの数秒で、「あ！大浦天主堂から西坂の丘があの映像のように見えていたに違いない！」といつも思うのです。

もちろん殉教の出来事をプチジャン神父様は見えていませんが、日々殉教者に思いを馳せるために、西坂の丘に聖堂正面を向けたと言われています。私たちの田平教会聖堂も 26 聖人に献げられた教会です。聖堂正面に立つ時、一度でいいから、26 聖人に思いを馳せていただきたいです。

福音朗読に戻りましょう。イエスが漁師シモンに「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなささい」(5・4)と言われたのはもう日も高く上がった時間でした。湖ですから満潮とか干潮とかは起こりません。漁に関係するのは日照です。シモンは「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした」(5・5)と、丁寧に申し出を辞退しようとしたのです。「先生」に恥をかかせるわけにはいかないからです。

それでもシモンはイエスに従います。「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」(同上)。まるで、ミサが中止になった「神のことばの主日」からの連続講話のようです。「お言葉」が、常識では考えられない奇跡を起こしたのです。イエスは「漁をなささい」と言われただけで、作業に指一本貸してもいないのです。むしろそれが幸いでした。

私も六年間、平戸瀬戸にボートで通いました。「通い詰めた」わけではありませんが、にわか漁師の経験で、大潮の時は大いに期待して漁港を出るわけです。しかし思うような釣果にありつけませんでした。意外に思われるかも知れませんが、平戸瀬戸では小潮の時に、大物を掛けたような気がします。イエスは人間の予想に合わせて力を貸してくれるのではないのだとつくづく思い知らされました。

人間の知恵を尽くし、力を尽くして徒勞に終わった直後にイエスから何かを願われたら、私は何と答えるのでしょうか？「さんざん力を尽くしたのです。これ以上何を要求されるのですか？」と不満を漏らすのでしょうか。シモンは私たちに最高の模範を残してくれました。「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう。」

じつは田平教会に縁のある聖職者も、同じことばをモットーにして司祭になり、司教になり、今は枢機卿として日本の教会と世界の教会のために身を捧げています。私よりも漁師であった枢機卿様が、「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」とイエスに全幅の信頼を寄せて神の民を牧しています。見倣わない理由など、どこにもありませんね。

神のことばの働きは、人間の知恵と努力のその向こうで働いてくださいます。「これ以上は私たちには出来ない」そう思ったときが、イエスの出番です。私たちもイエスに全幅の信頼を寄せることにしましょう。